

平成27年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

478人 (男子239人・女子239人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人, 教諭 18人(うち, 臨時的雇用2人), 養護教諭 1人, 非常勤講師 9人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

2 附属天王寺中学校の特徴

本校は、昭和22年4月、大阪第一師範（現大阪教育大学）に設置された。昭和31年に大阪学芸大学（現大阪教育大学）に附属高等学校が設置された。それ以降、附属高等学校天王寺校舎とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で、主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し、将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成を目指している。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 「学びの共同性」を高める 生徒の学力と、「生きる力」につながる人間としての力を育てる活動を、各教科・校務分掌で工夫し、実践する。生徒会活動を重視し、個性を尊重する意識と協働の力の育成を進める。
2. 「学びの自律性」を高める 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を展開する。
3. 「国の拠点」「地域のモデル」を目指す 学校生活における生徒の安全・安心を確保するため、教育環境を整備・充実させると共に、教員研修や教育実習生指導の向上を目指す。
4. 「学びのもり」を発信する 多様な活動の場を提供し教育研究、教育実習、生徒指導各分野での成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の平成27年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 「学びの共同性」を高める 生徒の学力と, 「生きる力」につながる人間としての力を育てる活動を, 各教科・校務分掌で工夫し, 実践する。生徒会活動を重視し, 個性を尊重する意識と協働の力の育成を進める。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改 善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
「学びの共同性」を 高める	生徒面談の実施により, 生徒の悩みや変化をいち早く察知し, 全員が安心して学習できる環境を作る。(生指部)	6月に生徒指導アンケートを取り, そのアンケートを元に各担当が全員と面談することができ, 生徒の悩みをいち早くキャッチすることができた。	学年によっては, 年度の後半に再度面談を行い, 次の学年への不安解消の場を設けられたが, 学校全体でできなかった。	A	クラス担任に差があり, 言える担任と言えない担任がいるのではないかと。全員との面談を達成。	B	全員との面談を継続する。
	生徒の個性を生かし, 相互に学び合うことで, 学力を高められる授業・環境を目指す。(社会科)	教育研究会や近附連における発表等を通して, 教員間での情報交換を密に行うことができた。	定例の曜日を決めるなど工夫し, 平常の授業においてもできる限り相互の授業公開や教材の共有化を行いたい。	B	さらに, 継続してもらいたい。	A	特になし。
	授業での学習活動を通して得たものを, 一人ひとりがより一層理解を深めるため, 共に学び合う姿勢の育成を進める。(数学科)	授業で学んだことを身近な事例について活用し, 実践例を発表した。また, 教え合うことで理解が深まることを認識させ, 学び合いを促すことができた。	活用し, 共有することを重点に置くためにも, 授業計画にもっと余裕を持たせるべきだった。また, 分野を狭めることによってさらに深い考察ができたと考える。	B	さらに, 継続してもらいたい。	A	特になし。

	集団での学習活動におけるコミュニケーション力向上のために、共通するテーマを教科内で設定する。(理科)	「授業等における評価の工夫」というテーマで全員が公開授業を行った。小中高研究会で意見交換をした。	公開授業の振り返りの時間を確保できるように、教科会の案件を整理する。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	感動や想いを表現につなげる力を育成する。グループでの活動力を高める。(音楽科)	生徒の表現力が伸びた。ドロップボックスを利用し、自宅やパートごとの練習に役立てた。	個人の意欲に依存する面が多いため、自主練習の大切さを意識させる。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、生徒間の協働を促す。 音声面に意識を向けた反復練習を通して基本事項の定着を図る。(英語科)	ペアワークを中心とし、必要に応じてグループワークを取り入れた授業を展開し、目標を達成した。 音声面に意識を向けさせながら文法語法事項も意識させた。	グループワークの方法をさらに工夫する。 定着度合いの個人差を縮める。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	教育研究会におけるテーマを介して、お互いの研究成果を共有するとともに、各教科の研究に活かす。(研究部)	事前の発表会を行うことで、各教科における評価に関する取り組みを共有することができた。	各教科での取り組みがより共有しやすくなるように、枠組みを上手く設定する必要があるだろう。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 「学びの自律性」を高める 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を展開する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
「学びの自律性」を高める	中学では自由研究の指導において、カリキュラムの検討などを行う。(教務部)	中学では、指導教員の関わりを深めるため、取り組みの中心となる2年生でゼミ形式を実施した。中間発表会もゼミ毎に行ったことで専門性を高めることができた。	中学の本年度の試みは効果的だと考えられるので来年度も継続したい。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	いい取り組みである。中学校の取り組みがうまく高校に繋がっていけばよい。
	生徒議会のみならず、学級での議論も活発に促し、生徒全体で生徒会活動に取り組む環境を作る。(生指部)	学級での決め事(学芸会の出し物や音楽会の曲決め)では、活発に議論することができた。	学級会活動や授業内での問題点などを学級で議論し合うといった場面は見られなかった。	B	学級での議論の機会を今後も確保してもらいたい。	A	特になし。

	美化意識を向上させ、清掃指導を徹底させる。(健康人権部)	清掃に必要な物品を自主的に取りに来て、進んで汚れた箇所の美化に努めている姿が認められた。	美化意識については現状の維持に努めたい。高校が7限授業の際は、清掃効率化・重点化のための工夫があってもよい。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	学びの自律を目指す評価の工夫と改善を進める。(社会科)	教育研究会を中心に据え、言語活動を中心とした授業実践を行うことができた。	中高の連携をより一層密にし、発達段階に応じた実践を重ねていきたい。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	基礎基本の定着とそれを利用した論理的思考力を養わせ、長期的な目標を設定し、主体的に学習に取り組める力を身につける授業を工夫する。(数学科)	学習計画に沿った課題を与え、単元毎に分析、考察を個々にさせ、新たに課題を考えさせた。	課題に対して分析、考察することで、疑問点、気づきを得る生徒が多かったが、課題をより工夫することでさらに深まると考える。また共有も発展の一つだと思ふ。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 「国の拠点」「地域のモデル」を目指す 学校生活における生徒の安全・安心を確保するため、教育環境を整備・充実させると共に、教員研修や教育実習生指導の向上を目指す。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
「国の拠点」「地域のモデル」を目指す	学校行事を、生徒が主体的になって取り組めるように、様々な分野におけるリーダーの育成を行う。(生指部)	生徒会役員を中心とした生徒会企画や、学芸会、音楽会での学級での取り組みに関しては、各パートのリーダーが自覚を持って取り組むことができた。	教員の指導が入らないと学級全体が動かないといった場面も時折見られ、リーダーの自覚はあるものの、生徒全体を動かすといったレベルにはまだ達していない。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	道徳の教科化に向けて、「私たちの道徳」の活用方法や読み物資料・視聴覚教材の活用方法について研究・実践し、その成果を発信する。	研究会の事前発表会を実施することで、各教科における評価の取組状況を共有することができた。教員の授業公開も実施できた。	冊子を活用して、普段から授業力向上に取り組むための工夫が必要である。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。

	(研究部)						
	中高連携の地域モデルとして、理科の教員全員が中高の活動に関わり合いを持つ。また、中学の活動を高校に繋げていく工夫についても考察し、その結果を発信する。(理科)	小中高研究会で、中高の取り組みについて議論し合うことができた。また、中学校の磯観察や高校の地学実習などでは、全理科教員が関わり生徒を指導することができた。	理科教員全員が関わる行事において、ノウハウや結果をまとめ発信できるようにする。	B	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	電子黒板と無線LANの接続を生かして、iPadも含めた新しい教育方法の開発への取り組みをサポートする。コールセンターの活用も模索する。(庶務部)	昨年度大学から職員室へ置かれたままの生徒貸し出し用iPad 48台すべてに、Apple IDを登録して、iPadの環境整備をした。コールセンターの空調施設の整備に伴い、パソコンの撤去設置に努めた。	OSやアプリケーションの更新を怠らないように努める。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。
	安全な学校生活に向けた基本の確認と、突発的な事象を想定した訓練を実施する。(健康人権)	不審者と地震火災の2回の訓練を計画したが、1回は雨天で中止した。	雨天時の対応が計画されておらず、早急な対策が求められる。	B	別の機会に実施してもらいたかった。	B	目的をしっかり持って訓練を行うことが大切である。

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	4. 「学びのもり」を発信する 多様な活動の場を提供し教育研究、教育実習、生徒指導各分野での成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
「学びのもり」を発信する	中高の学習指導・生徒指導の内容・方法について協働で議論し、その内容を天王寺中高全体の学校案内という形で外部に提示することを目指す	学習指導・生徒指導の協働での議論をする機会が持てず、中高全体の学校案内を作成することもできなかった。	学校案内作成を目標として、より具体的な中高の議論の場の設定を考えていく必要がある。	C	作成を継続してもらいたい。	B	特になし。

	。(教務)						
	生徒会活動を従来の生徒会通信以外に、学校ホームページでも紹介し、附中内外に生徒会活動の内容を周知する。 (生指部)	定期的に生徒会通信を発行し、附中内に対しては、生徒会活動の内容を周知することができた。	生徒会ホームページのシステムの確認に時間を費やしたことにより、ホームページの制作が遅れ、アップロードするまでには至らなかった。	B	さらに、継続してもらいたい。	B	特になし。
	学校行事や生徒の学校生活について活動の様子や取り組みの報告をホームページで紹介する。また、副校長通信「一期一会」を適宜活用して、学校生活や「学びのもり」の活動について紹介する。 (広報)	PTAや係教員の協力によりホームページを小まめにアップすることができたので、学校の様子を内外に紹介することができた。「一期一会」は45号まで発行することができた。	引き続き情報発信を続けていきたい。	A	さらに、継続してもらいたい。	A	特になし。

